

# 全天周映像『オーロラ』制作報告

西野 藍子 \*

## 概要

2012年12月7日(金)～2013年3月24日(日)に投影するプラネタリウムとして、全天周映像番組『オーロラ』を制作した。本作は、前年度に投影した学芸員による生解説プラネタリウム『オーロラの世界』を、新たに全編フルCGの全天周映像作品とするため、有限会社AND You様に制作を依頼したものである。ここでは、制作の過程を記録に残し報告する。

### 1. はじめに

当館では2011年度に、渡部学芸員により制作された生解説プラネタリウム『オーロラの世界』を投影した。本作は、それをベースに新たに原案・脚本を執筆して、有限会社AND You様に全編フルCGの全天周映像作品の制作を依頼したものである。

本稿では、本作品の制作過程を紹介する。

### 2. コンセプト

本作を制作するにあたり、原案時のコンセプトを以下に記す。

#### ○本物の迫力あるオーロラ映像

全天周プラネタリウム作品であるからには、ドームスクリーンならではの臨場感あふれる映像としたい。オーロラについても、CGグラフィックではなく、現地で実際に撮影された本物のオーロラ映像を使用することにこだわった。

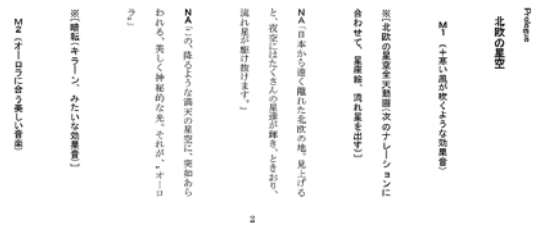
#### ○オーロラが発生する原理

オーロラが発生するのは、地球と太陽が深くかかっている。もちろん、そのしくみはかなり複雑でわかっていないことも多い。今回は原理として、①地球に大気があること、②地球に磁場があること、③太陽から電粒子が含まれる太陽風がやってくることを、この3つによってオーロラが発生するということを知ってもらおうことを目指した。

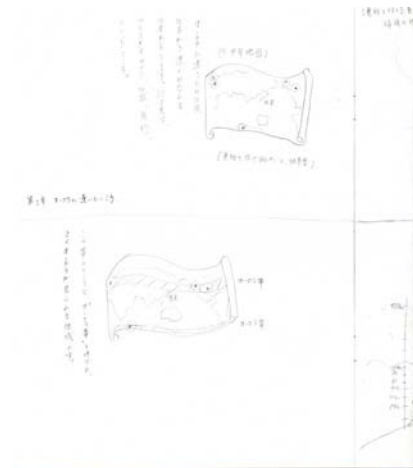
### 3. 制作過程

#### 1)シナリオ制作 (2012年8月頃)

2011年度のプラネタリウム『オーロラの世界』をベースに、シナリオ(原案)を制作した。制作期間は2012年8月1日～22日ごろである。シナリオには、構成、ナレーション、および効果音や音楽の配置などを盛りこんだ。また、イメージが伝わるよう、絵コンテも制作した。



■ シナリオの一部



■ 絵コンテの一部

\*大阪市立科学館 学芸グループ  
E-mail:nishino@sci-museum.jp

また、制作したシナリオについて、学芸内でレビューを数回行った。その際、指摘された事項をレビューシートにまとめ、各項目への対応について細かく記録した。

## 2)委託業者の選定 (2012年8月末)

今回、制作を委託する業者をコンペにて選定した。上記1)にて第1案としたシナリオを基に、各制作会社より内容展開の概要、それに伴う映像・音響、ならびに所用経費について文書にて提案していただき、当館での実施可能性等を勘案して委託先を決定した。業者からの提案書を2012年8月28(火)までにいただき、8月31日(金)に決定通知を行った。

以下にコンペの審査方法と審査結果を記載する。

### ①審査方法

企画力、素材、金額、実績の有無、納期の5項目について、プラネタリウム担当の学芸員6名がそれぞれ点数(1～5点)をつける。最高150点満点で合計点が高い業者を選定する。

### ②審査結果

制作会社5社について、①の通り審査を行った。その結果、最も点数の高かった有限会社AND You様に制作を委託することとなった。

## 3)本格制作 (2012年9月～11月初め)

2012年9月～11月初めにかけて、AND Youの波田野さまとシナリオのブラッシュアップを行い、同時に映像制作に入った。また、オーロラ映像素材の選定作業も行った。楽曲については、シーンごとに希望する音楽のイメージを制作側に伝え、選曲もしくは作曲を行ってもらった。

## 4)シナリオ録音 (2012年11月13日)

11月初め頃にシナリオの録音稿を完成させた。そして、11月13日(火)にナレーションの録音を行った。その際、効果音や音楽も一緒にデータとして組み込んだ。

## 5)ドーム試写・最終調整 (2012年11月末)

当館プラネタリウムドームにてドーム試写を行い、映像や音楽、効果音のタイミングなどの最終確認を行った。PC画面とドームでは見え方も異なってくるため、2回ドーム試写を行ったが、そのことで見えてきた修正点も多数あり、実施した成果があったと考える。

## 4. 上映開始

2012年11月末～12月頭にかけて、追い込み作業を急ピッチで行った。そして11月28日に、大阪市立科学館内で試写会を行った。ご指摘いただいた中で、修正できる箇所については最大限修正を行い、いよいよ12月7日(金)に上映開始となった。

## 5. 観覧人数

2012年12月7日(金)～2013年2月24日(日)に上映を行った結果、観覧いただいたお客様の人数は一般、団体を合わせて以下の通りとなった。特筆すべきは1回の平均人数である。12月が204人に対し、1月は235人、2月は273人と徐々に増えている。当館プラネタリウムの最大収容人数は1回300人であることから、2月はほぼ毎回満席の状態だったと言える。

観覧人数一覧

	12月	1月	2月	合計
観覧人数[人]	11,821	13,152	14,186	40,405
1日平均[人]	563	572	676	-
1回平均[人]	204	235	273	-

## 6. スタッフ

本作のエンドロールに記載のあるスタッフを以下に記す。制作にあたっては、AND Youの波田野さまや監修の片岡先生、および、すばらしいオーロラ映像を提供くださった中垣さまの他、ここに名前が挙がっている方々をはじめ、当館学芸員一同およびスタッフより多くの暖かいご協力を賜ったことを、この場を借りて改めて深く御礼申し上げます。

ナレーター	前野 智昭
原案・脚本	西野 藍子
演出	波田野聡美
作画	金子 千穂
CG	内室 洋佑 岡本 崇志
監修	片岡 龍峰
オーロラ映像提供	オーロラ 3D プロジェクト 中垣 哲也 ユニカムノルタプラネタリウム
整音	前島 慶太
選曲効果	新井 俊平
テーマ曲作曲	新井 俊平